メッセージ　4

雅歌の第四段階――さらに強く召されて、復活の後の十字架を通して幕の内側で生きる

聖書：雅 6:4 前半，13

Ⅰ．キリストを愛する者は、復活の中の新創造としてキリストの昇天の中に生きることを通して、キリストの命の豊富の中で円熟し、キリストにとって園（雅 4:12―5:1．6:2）となるだけでなく、またテルザによって表徴される神の聖なる所、またエルサレムによって表徴されるその保障となります（4 節前半）：

A．王は、彼を愛し追い求める者の美しさを称賛し、こう宣言しています、「わが愛する者よ、あなたは美しいことテルザのよう、愛すべきことエルサレムのよう……である」――4 節前半。

B．テルザは、イスラエルの王たちの首都であり、王宮のある場所でした（列王上 14:17．15:21．16:23）。ここでは積極的な意味で述べられており、神の聖なる所、すなわち王としての神の住まいを表徴します。聖なる都エルサレムはユダの首都であり、地上での神の住まい（宮）の保障でした。

C．旧約で、神の建造は、テルザとエルサレムによって予表されています。新約で、この建造は、キリストの有機的なからだです。究極的に、キリストの有機的なからだ（キリストの妻でもある――エペソ 5:25-32．参照、創 2:22）の建造は、新エルサレム、すなわち、至聖所の究極的完成としての聖なる都、永遠における神と彼の贖われた者たちとの相互の住まいを究極的に完成します（啓 21:2-3，16，22）。

Ⅱ．キリストにとって園となることは、計り知れない豊富を伴うキリストの命の要素の中で繁茂することです。神の聖なる所となるとは、キリストの命とその計り知れない豊富をもって成長し円熟に至ることによって、建造されることです（キリストのからだの建造と関係がある）――エペソ 3:8．4:12-16：

A．神の聖なる所は天にありますが、幕によって二つの部分に分けられています。幕はわたしたちの肉を表徴します――ヘブル 10:19-20。

B．キリストに関して、神の聖なる所にある幕はキリストが十字架につけられた時に裂かれましたが（マタイ 27:51）、信者たちに関して、幕は依然として残っています。それは神が彼らを対処するためです。

C．使徒パウロはキリストの命において円熟し、キリストの昇天の中に生きていましたが、神はなおもサタンの使いを通して、彼が高ぶり過ぎないように、肉体に一つのとげを持つようにしました――Ⅱコリント 12:7。

D．神はご自身のエコノミーの中で、まず、わたしたちの霊の中で、彼の復活の命をもって、わたしたちを再生します（ヨハネ 3:6．ローマ 8:10．Ⅰペテロ 1:3）。次に、わたしたちの魂の中で、内側の新陳代謝の過程によって、わたしたちを造り変え、キリストと彼の豊富をわたしたちの新しい要素としてわたしたちの存在の中へともたらし、わたしたちの古い、天然の要素を徐々に排出します（Ⅱコリント 3:18．ローマ 8:2）。最終的に、主が戻って来られるとき、わたしたちの体は変貌させられて、キリストの栄光の体に同形化されます（ピリピ 3:21．ローマ 8:23）。

Ⅲ．わたしたちは、依然として主によって究極的に召されて、神の新創造として、主の復活を経験した後、十字架がわたしたちの肉を対処することをさらに強く経験することを

通して、幕の内側に生きる必要があります：

A．キリストを愛する者が、雅歌の第一段階で、満足を得るためにキリストを追い求め、それを獲得した後、内省によって隔離されていた時、主はまず彼女を召して、ご自身の十字架を経験させることによって自己から解放されるようにしました。それから主はさらに彼女を召して、復活の中の神の新創造として、ご自身の昇天の中で生きるようにしました。今や究極的に、主は彼女を召して、幕の内側で生きさせ、至聖所、すなわち神ご自身の中で、キリストの中に具体化されている、究極的に完成された神を享受させます――参照、ヘブル 10:22：

1．神のエコノミーによれば、わたしたちがどれほど円熟し霊的になっても、地上に生きている限り、すなわち、わたしたちの体がまだ変貌させられていない限り（ローマ 8:23．ピリピ 3:21）、わたしたちには依然として肉、すなわち幕があります。

2．わたしたちは毎日、十字架の対処を経験することによって幕を通過し、幕の内側、すなわち至聖所の中で生きることを学ぶ必要があります――Ⅰコリント 15:31．ルカ 9:23。

3．わたしたちは至聖所の中へと入るとき、神の中へと入り、聖なる所となります。この意味で、わたしたちは神格においてではなく、命と性質において神となります。真のシュラムの女として、わたしたちは「真の神、また永遠の命」であるキリストの複製また再生産となります――Ⅰヨハネ 5:20。

4．至聖所の中の契約の箱には、わたしたちの経験と享受のための三つのすばらしい項目があります：

a．金のつぼの中の隠されたマナは、すべての供給の神聖な源である父なる神を指しています――出 16:32-34．啓 2:17 前半。

b．芽を出した杖は、復活であるキリストを表徴します。神聖な三一の三者のうち、第二者は復活です――民 17:1-11．ヨハネ 11:25。

c．律法の板は、わたしたちの霊の中の内なる法則である命の霊の法則を指しており（ローマ 8:2, 10）、それは契約の板によって表徴されています（出 25:16．31:18．申 10:1-5．エレミヤ 31:33）。

d．わたしたちが見る必要があるのは、御父がわたしたちの中におられ（エペソ 4:6）、御子がわたしたちの中におられ（コロサイ 1:27．Ⅱコリント 13:5）、その霊がわたしたちの中におられる（ローマ 8:9）ということです。

e．こういうわけで、父、子、霊は至聖所の中に住んでいます。わたしたちは、実行上の至聖所であるわたしたちの霊の中へと入るとき、神の中へと入り、供給の源である御父、復活である御子、命の法則であるその霊に会います。

B．至聖所、すなわち究極的に完成された三一の神の中で、キリストを追い求めるすべての者は、ここにおいて、手順を経て究極的に完成された三一の神を最も満ち満ちた程度にまで享受します。これが、雅歌において提示されている、キリストを愛する者の経験における最高の段階です。

Ⅳ．究極的に、わたしたちは同形化されて、すばらしいシュラムの女になります。彼女はソロモンの複製として、キリストの配偶者である新エルサレムの、最大で究極的な型です――雅 6:13．啓 21:2, 9-10．22:17 前半：

A．ソロモン王が田舎男となって田舎娘に求愛し、彼女を自分の王妃、自分の複製とした

ように、神はキリストの中で人と成って人に求愛し、人を神格においてではなく、命、性質、表現、機能において神とならせ、キリストの花嫁とします――マタイ 9:15. 啓 19:7. 参照、詩 45:1-3, 9, 13-14。

B．聖書が啓示しているのは、神が人と成ってわたしたちに求愛したということ、また今やわたしたちが彼に求愛して、彼との個人的で、愛情に満ちた、私的で、霊的な関係を通して、神聖になって彼を表現することを、神が願っているということです――伝 1:2. 雅 1:1-8. 参照、Ⅱコリント 2:10. 出 33:11. ローマ 8:4, 6. Ⅰコリント 2:15。

C．「シュラムの女」は、「ソロモン」の女性形です。これは、今や勝利者たちが、神格においてではなく、命、性質、表現、機能においてキリストと同じになって、神のエコノミーを遂行することを示します。

D．シュラムの女は、神の目に、二つの陣営あるいは二つの軍隊（ヘブル語は「マハナイム」）の踊りにたとえられています。ヤコブは、神の御使いたち、すなわち神の二つの軍隊を見た後、自分がいた場所をマハナイムと名づけ、自分の妻たち、子供たち、所有物を「二つの軍隊」に分けました――雅 6:13. 創 32:1-2：

1．ヤコブがエサウと対面するために進んでいた時、神の御使いたちがヤコブに会いました。そして、彼はその場所の名をマハナイムと呼びました――1-2 節。

2．ヤコブは、神の御使いたちを神の二つの軍隊として見た後、妻たち、子供たち、所有物を二つの群れ、あるいは「二つの軍隊」に分けました。これは、わたしたちが勝ち得て余りある者であり、力強い証しを担っていることを示しています――7 節。

3．それが示しているのはまた、神が「巨人」を願っておらず、脆弱な者、より弱い者、すなわち女や子供だけを願っているということです――Ⅱコリント 11:29. ローマ 9:16。

4．神は、自分自身の中で強い者を願いません。勝利者と勘定される者は、からだの原則の中で完全に主に依り頼んでいる、より弱い者たちです――Ⅰコリント 1:26-28. Ⅱコリント 11:29. 12:9-10. 13:3-5. 啓 3:8. Ⅰペテロ 5:5. 申 32:30. 伝 4:9-12. ローマ 9:16. 16:20。

5．二つの軍隊の霊的な意義は、わたしたちがキリストのからだの原則にしたがって、わたしたちを愛してくださった方を通して、勝ち得て余りがあるという力強い証しです――ローマ 8:37. 12:5. 申 32:30. 伝 4:9-12。

6．神は、ご自身と一である人、編んだ髪によって表徴される、神に服従する人（雅 1:11）、また宝石の首飾りを着けた首によって表徴される、柔軟な意志をもって神に従順である人を必要とします（10 節）。

7．わたしたちは神聖な啓示の最高峰にどのように到達するかを考えるとき、自分自身に信頼するのではなく、愛、力、あわれみとしての主に依り頼み、わたしたちをあわれみと尊貴と栄光の器としていただくべきです――ローマ 9:16, 21-23. 雅 8:5-6。

©2026 Living Stream Ministry